

# 2011年度 第2四半期決算

2011年11月9日



住友軽金属工業株式会社

# 目次

1. 第2四半期決算概要

2. 今期業績予想

3. SUMIKEI VISION 2012

【SV12】概要・実績(第4次中期経営計画)

# 1. 第2四半期決算 概要

# ① 連結子会社

連結対象: 25社 → 28社

アルミ圧延品	住軽アルミ箔	} 10/1付けで 合併
	SLMオーストラリア	
	住軽テクノ	
	住軽テクノ名古屋	
	住軽テクノ安城	
	住軽テクノ群馬	
	住軽テクノ恵那	
	住軽テクノチェコ	
	住軽テクノタイ	
	* SKコーポレーション	
* SKスリッピング		
* SKCアメリカ		
伸銅品	東洋フイツテング	
	住軽マレーシア	
	住軽広州	
	スミケイ銅管販売	

加工品・関連事業	日本アルミ
	日本アルミ滋賀製造所
	住軽エンジニアリング
	岩井金属
	岩井アメリカ
	岩井メキシコ
	スミケイ運輸 アルミセンター
営業・流通	住軽商事
	住軽商タイ
	上海住軽商
	泉メタル

※各セグメントに配賦

持分法適用会社	☆TAAH <span style="float: right;">☆新規</span> (Tri-Arrows Aluminum Holding)
	☆TAA (Tri-Arrows Aluminum Inc.)
	住軽日軽エンジニアリング
	住軽パッケージ
	住軽アルパック

(注) 10/3付住軽伸銅 設立

## ②第2四半期のポイント

### 1. 経常利益：71億円、四半期純利益：56億円

- ・震災後の電力不安対応需要等により経常利益四半期純利益ともに予想を上回る。

### 2. TAA買収

- ・米国アルミ缶材圧延メーカーを他社と共同で買収

### 3. 公募増資：110億円

- ・資金使途：TAA買収資金

### 4. 成長戦略の遂行

- ・国内戦略投資：住軽アルミ箔 新スリッター増設（リチウムイオン電池用）  
SKコーポレーション買収
- ・海外戦略： TAA買収  
住軽テクノ・タイ 4月生産開始 → 10月洪水による浸水被害発生  
操業停止中  
  
住友軽金属（上海）開設  
住軽商昆山 板加工設備増設

### ③ セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位: 億円)

		10年度上期		11年度上期		増減	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品		891	102	873	87	△18	△15
伸銅品		219	1	266	10	47	9
加工品・関連事業		195	△1	209	2	14	3
調 整		-	△16	-	△16	-	-
合 計		1305	86	1348	83	43	△3

※売上高対前年同期増減事由

新規連結	地金価格差	合計
20	23	43

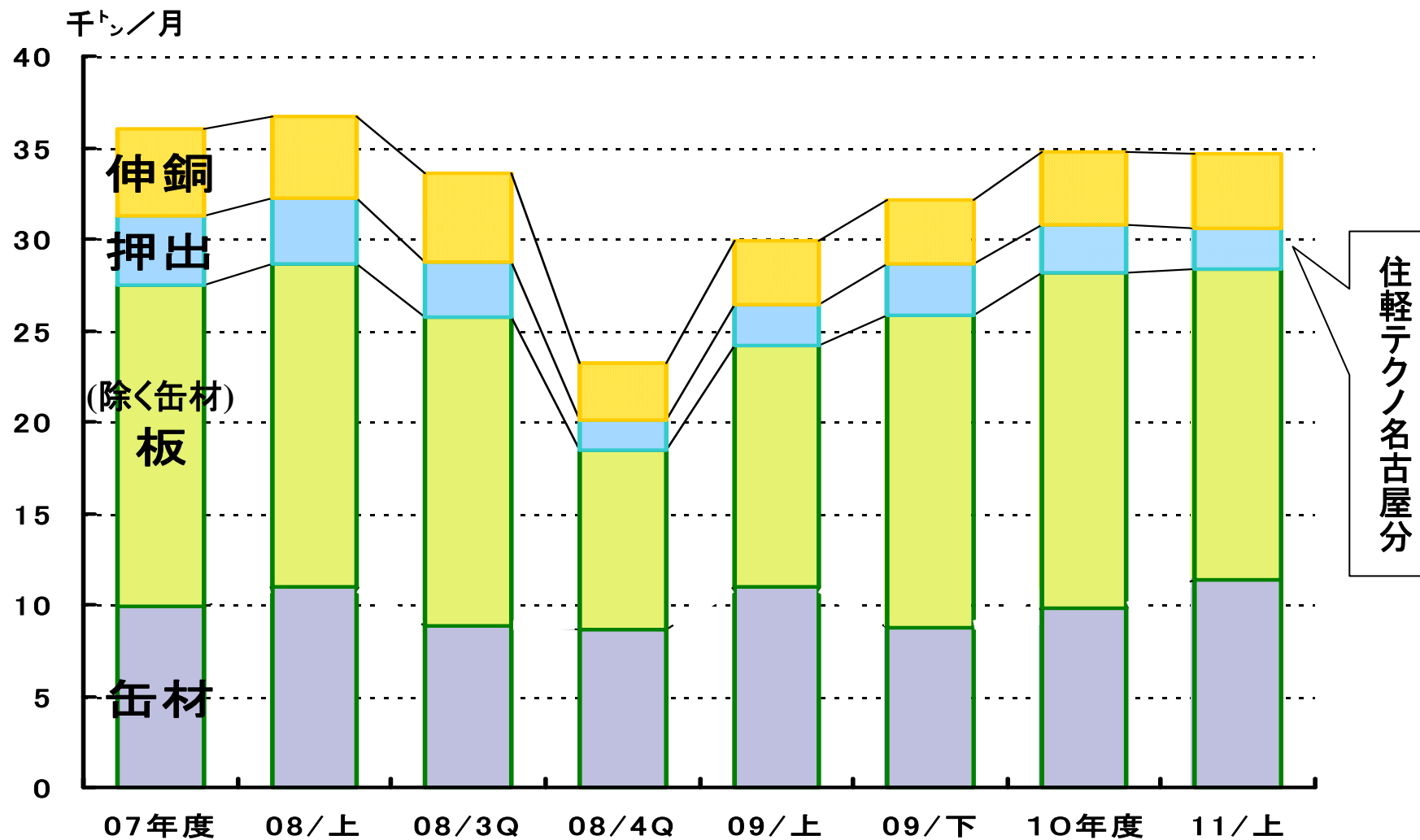
## ④ セグメント別売上高

(単位:千ト、億円)

	10年上期		11年上期		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量 伸率%	金額
アルミ板	173	649	170	640	△3 △1.9%	△9
その他	—	136	—	111	—	△25
アルミ圧延品計	—	785	—	751	—	△34
伸銅品	23	204	24	242	1 5.3%	38
単体合計	—	989	—	993	—	4

住軽テクノ名古屋	16	100	13	84	△3	△16
----------	----	-----	----	----	----	-----

## ⑤ 品種別販売量推移



## ⑥ 連結損益

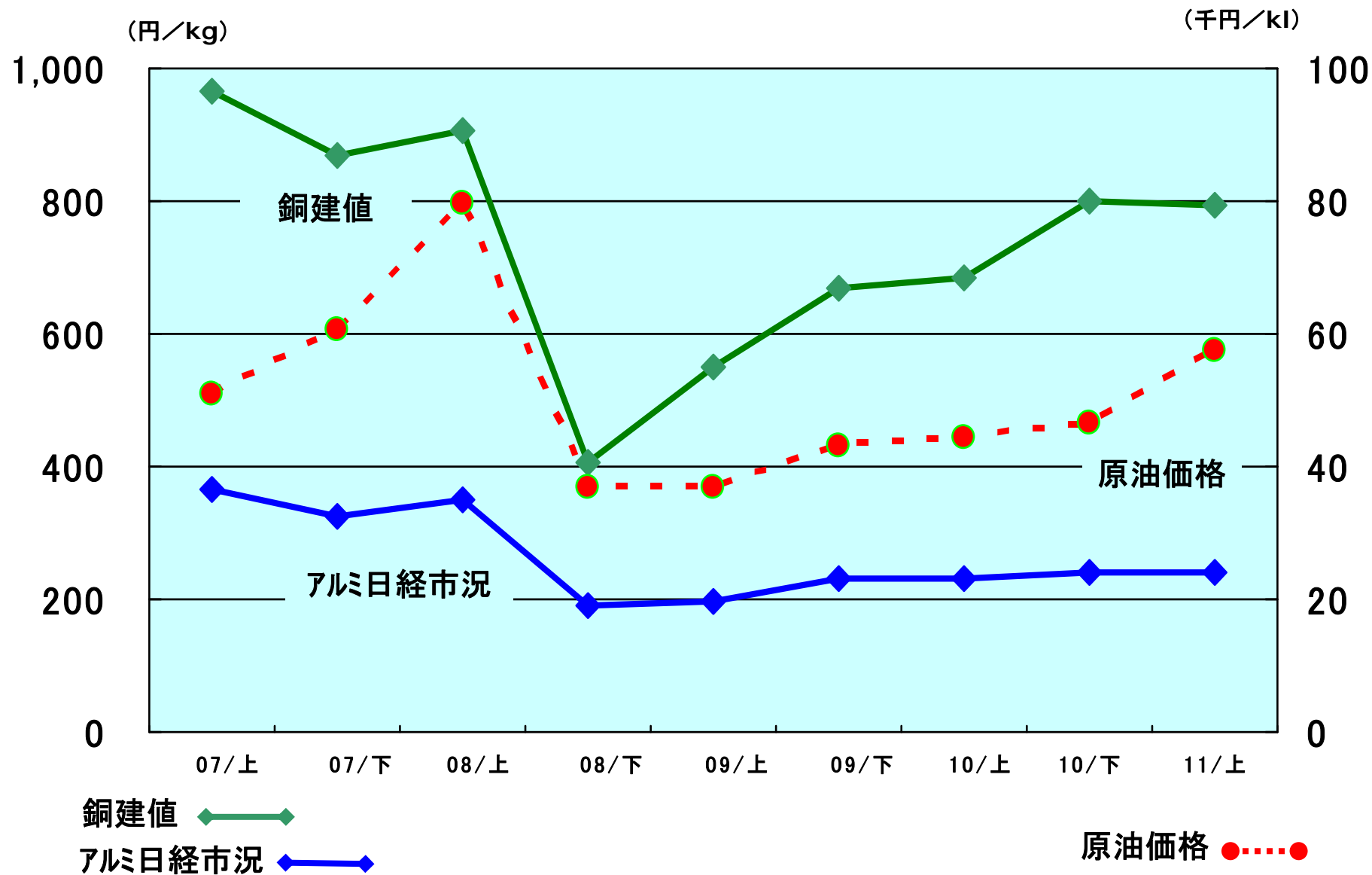
(単位：億円)

連 結	10年上期	11年上期	増 減	伸率%
売 上 高	1305	1348	43	3.3
営 業 利 益	86	83	△3	△3.1
経 常 利 益	64	71	7	10.4
当 期 純 利 益	40	56	16	39.7
設 備 投 資	24	30	6	
減 価 償 却 費	47	45	△2	

※特別損益内訳(主要科目)

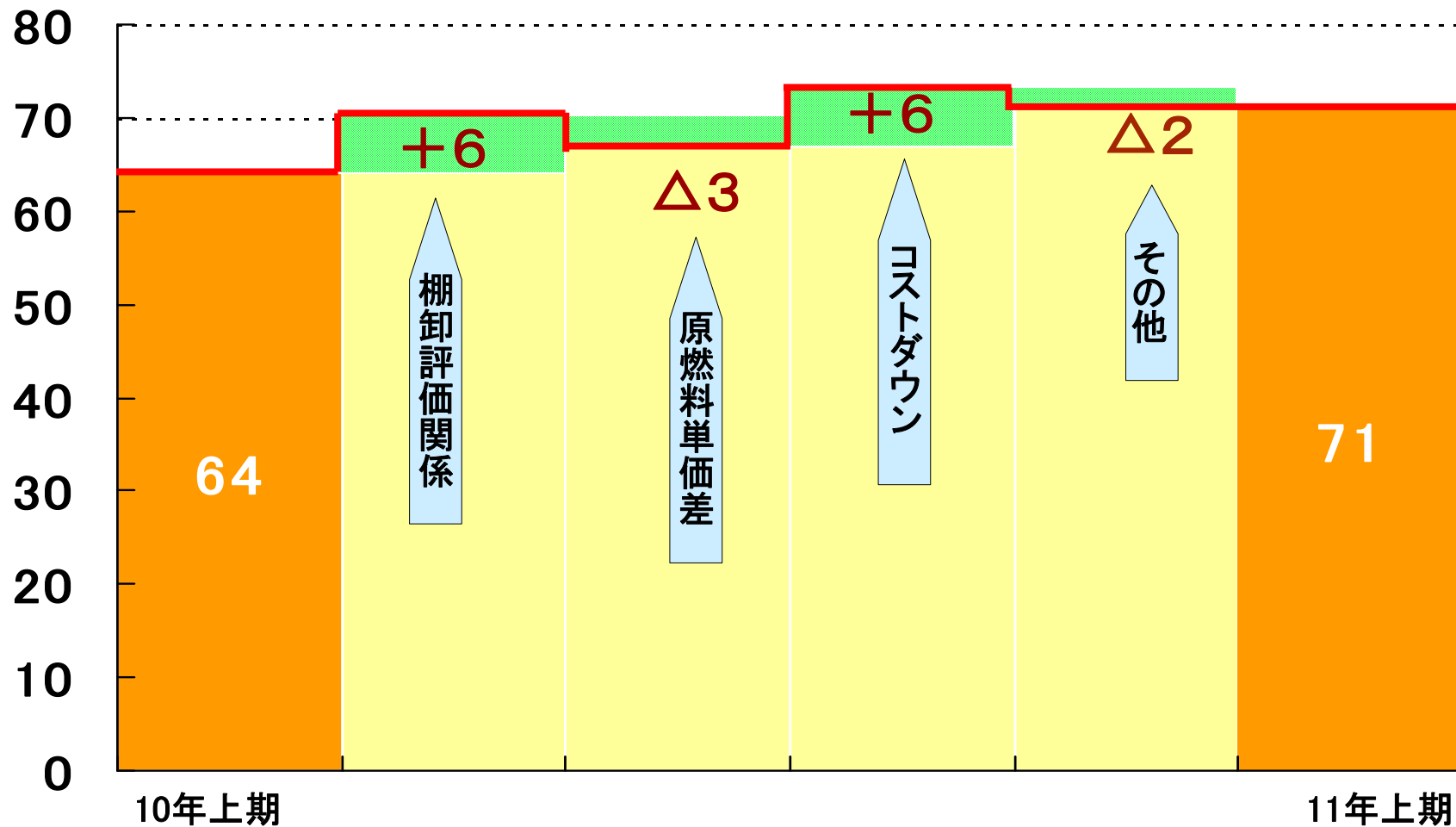
	10年上期	11年上期
投資有価証券売却益	0	8
投資有価証券評価損	△2	△12
資産除去債務	△12	—

# ⑦アルミ・銅地金及び原油価格推移



## ⑧連結経常損益分析

(億円) **64億円(10年上期) → 71億円(11年上期)**



## ⑨連結B/S主要項目

(単位：億円)

連結	11年3月末	11年9月末	増減
株主資本	390	556	166
その他の 包括利益累計額他	△37	△34	3
純資産	353	522	169
純資産比率	11.5%	16.2%	4.7%
総資産	3066	3228	161

有利子負債	1652	1600	△52
-------	------	------	-----

## 2. 今期業績予想

# ① 今期業績見通しのポイント

## 1. 経常利益: 125億円、当期純利益: 110億円

- ・当初予想数値確保を目指す、欧州金融不安、円高進行、タイ洪水被害等により下期の需要動向は不透明

## 2. 伸銅事業分社化 及び 日立電線・銅管事業撤退に関する協議開始

- ・10/3 株式会社住軽伸銅 設立
- ・日立電線の銅管事業撤退に関し、同社製造設備買取等の協力を協議

## 3. タイ洪水被害の影響

- ・住軽テクノタイ 及び NALCOが浸水被害により操業停止
- ・顧客への対応体制作りを進めている

## 4. TAA買収

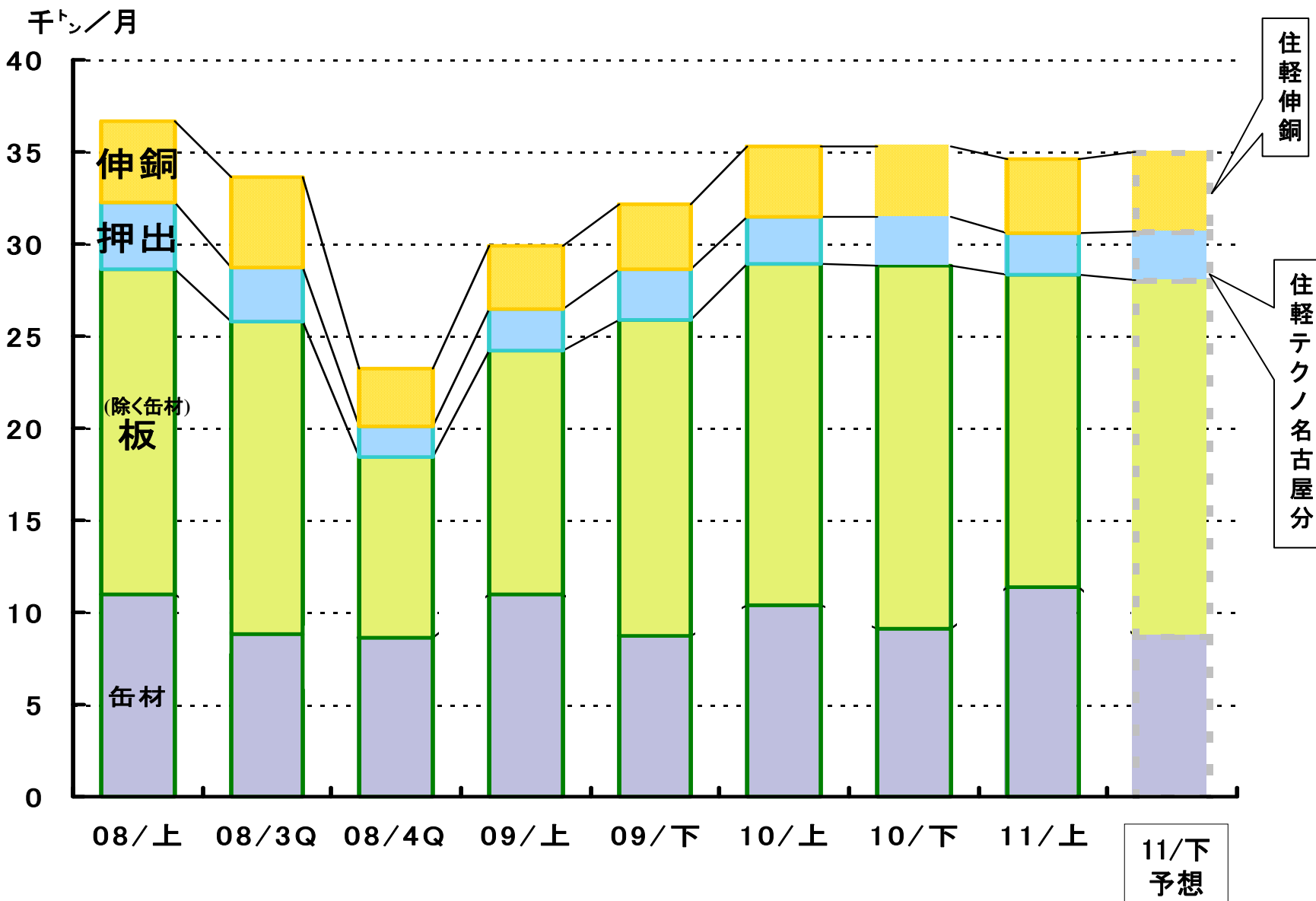
- ・8月に買収完了 当社業績に寄与(持分法損益)

## ② セグメント別売上高・営業利益予想(連結)

(単位: 億円)

	10年度		11年度予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	1744	177	1687	156	△57	△21
伸銅品	450	3	466	12	16	9
加工品・関連事業	401	5	397	10	△4	5
調整	-	△29	-	△31	-	△2
合計	2595	156	2550	147	△45	△9

### ③ 品種別販売量推移



## ④連結損益予想

(単位: 億円)

連結	10年度 実績	11年度 予想	増減	伸率%
売上高	2595	2550	△45	△1.7
営業利益	156	147	△9	△5.7
経常利益	115	125	10	9.0
当期純利益	72	110	38	53.0
設備投資	46	54	8	
減価償却費	95	93	△2	

## ⑤ 単体純資産予想（2012年3月末）

（単 位： 億円）

	2011年 3月末	2011年 9月末	2012年 3月末予想
資 本 金	229	285	285
資本剰余金	33	55	55
利益剰余金	△109	△14	18
株 主 資 本	153	326	358
評価換算差額等	96	87	73
純 資 産	249	413	431

2011年度配当予想 **未定** ☆

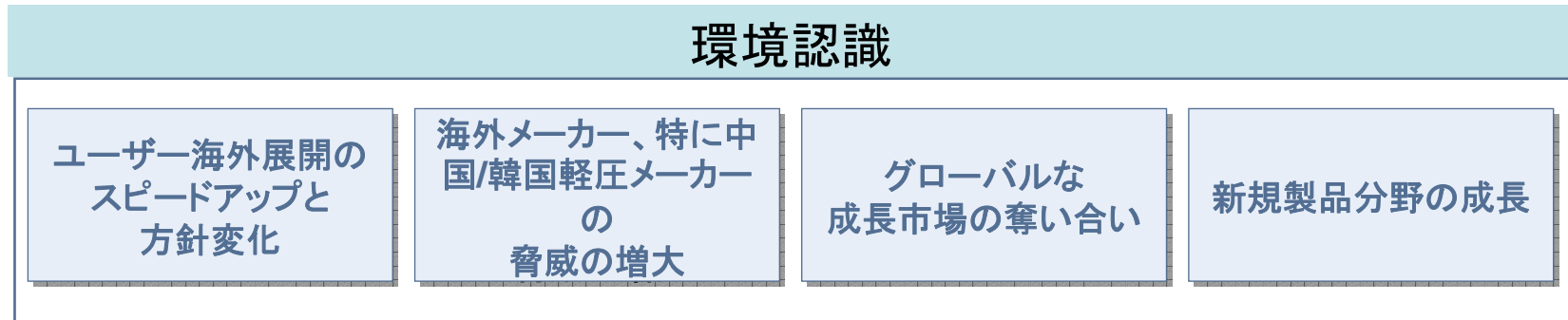
☆ 繰越損失を解消できる見込みだが、下期需要動向が不透明の為「未定」のままとした

# 3. SUMIKEI VISION 2012

## 【SV12】 概要・実績

### (第4次中期経営計画)

# ① 第四次中期経営計画(SV12)の概要



## 『ありたい姿』

お客様にとっての

**ベスト・グローバル・パートナー**

## 『実現のための中長期的課題』

- 1 技術開発力の優位性の維持・強化(既存分野/新規製品分野)
- 2 品質・納期・技術サービス等による海外メーカーとの差別化
- 3 海外展開ユーザーへのグローバルな供給体制構築
- 4 上記を含めた持続的成長投資が可能な安定的収益構造と財務体質の実現

## ② 第四次中期経営計画(SV12)の実績

### 海外事業

#### アルミ圧延事業

- ➔ 北米缶材拠点 (TAA)取得 (2011.8)
- ➔ 住軽テクノチェコ 第2期増設工事 (2010.1)
- ➔ 住軽テクノタイ 生産開始(2011.4)  
設備増設(2012 予定)
- ➔ 住軽商昆山 板加工設備増設 (2011.8)
- ➔ 住友軽金属(上海)開設 (2011.5)

### 国内事業

#### アルミ圧延事業

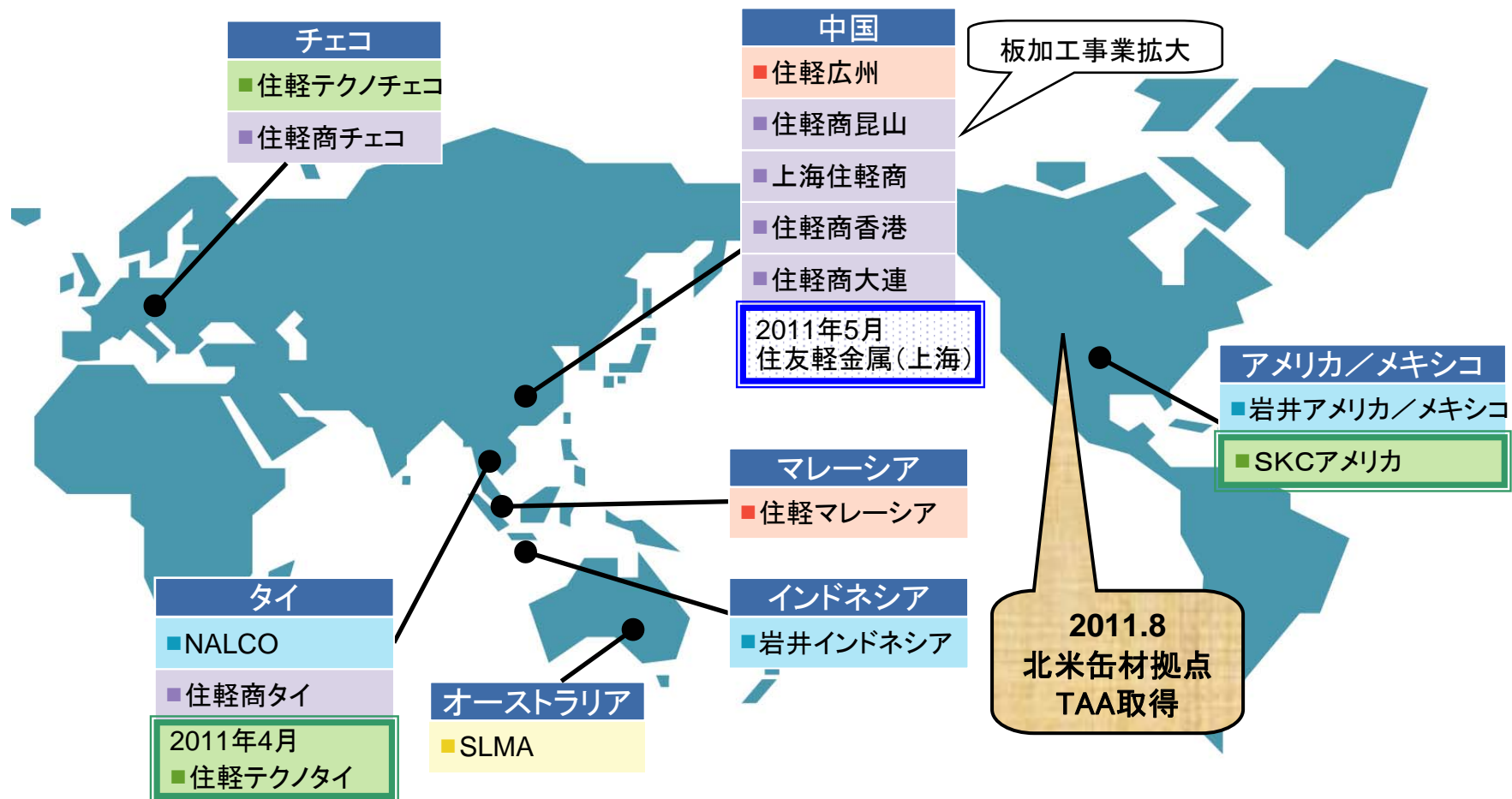
- ➔ 新冷間圧延機設置(2010.1)
- ➔ 住軽アルミ箔 リチウムイオン電池箔用スリッター増設(1台目2010.7)  
(2台目2011.7)
- ➔ SKコーポレーション買収(2011.4)

#### 伸銅事業

- チタン管設備増設(2010.11)

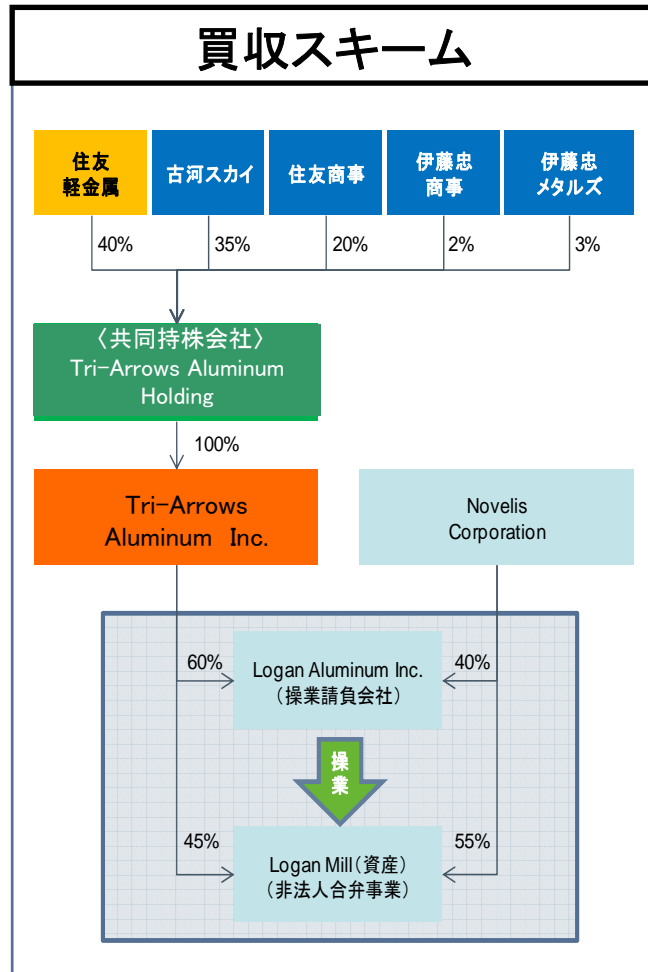
# ③ グローバル供給体制

事業部門	■ 板部門	■ 押出部門	■ 伸銅部門
	■ 加工部門	■ 流通部門(住軽商事グループ)	■ 製錬部門



# ④ TAA (旧ARCO) 買収による グローバル供給体制構築の推進: 案件概要

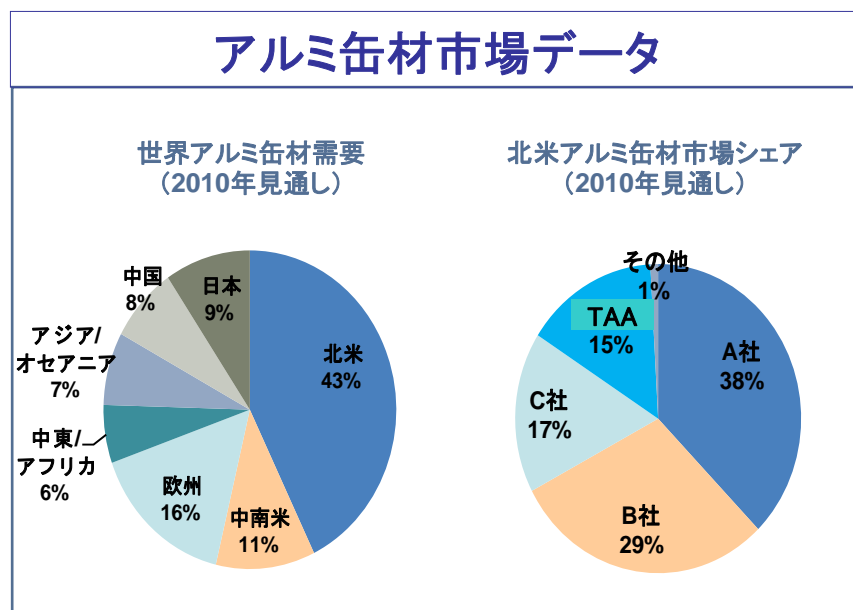
世界最大級のアルミニウム缶材圧延工場運営会社を日系5社で買収  
世界最大の缶材市場である北米での製造販売に進出



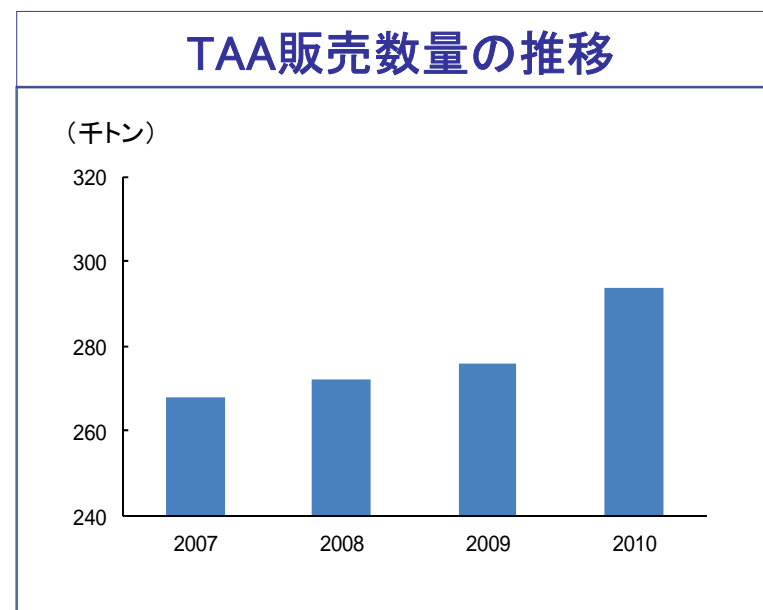
### TAA概要

所在地	ケンタッキー州 ルイビル
設立	1984年
売上高	約900\$mil.(2010年)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■飲料缶用のアルミ板(以下、缶材)の製造・販売</li> <li>■顧客は製缶メーカー</li> <li>■生産量は約30万t/年。北米缶材市場でのシェア15%</li> </ul>
事業形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Novelisとアルミ圧延設備を共同所有し、操業請負会社Loganにその設備を貸与し、受託加工を行わせている</li> <li>■TAA、NovelisがそれぞれLoganに原料を供給し、缶材用に加工されたコイルを引き取り、各自が独自に販売</li> </ul>
買収スキーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■買収金額: 680\$mil.</li> <li>■買収金額の約半分は米国にてローンで調達</li> <li>■スケジュール: 各国独禁法の申請等を実施し、2011年8月にクロージング完了</li> </ul>

## ⑤ TAA買収によるグローバル供給体制構築の推進： 買収の目的



(数値はコンソーシアム推定)



## TAAの取得 = 世界最大級の缶材圧延工場Loganへの参画

### 販売面のメリット

- アルミ缶材の世界最大市場である北米での製造・販売
  - 今後大きな伸びが見込まれる中南米市場への販売拡大
- ⇒ 今後拡大する世界飲料缶市場に対してグローバル供給体制構築の実現へ

### 製造・技術面のメリット

- 日本・北米それぞれの長所を活用したシナジー効果

## ⑥ 最近のトピック

### ☆日立電線・銅管事業撤退に関する協議開始(10/28発表)

- ・日立電線が2012/3末までに国内銅管事業から撤退することを決定
- ・当社は、同社からの製造設備の買取等協力申し入れに対し、最大限の協力を行うことを合意。  
⇒ 今後、日立電線の顧客のご希望も考慮し、両社間で個別協議

### ☆Constellium社 specialty sheet部門との業務協力(10/20発表)

- ・当社は、Constellium社 specialty sheet部門と業務協力検討について合意  
＜両社の生産拠点＞
  - 当社 … 日本
  - Constellium社 … 欧州：フランス(Neuf-Brisach)、ドイツ(Singen)



- ・相互に協力することでグローバルな製品供給ネットワーク構築
- ・自動車分野をはじめ、今後需要増加が見込まれる地域での業務協力検討  
⇒ 具体的な内容は、製品毎、地域毎に検討

# ⑦ 数値目標

単位: 億円

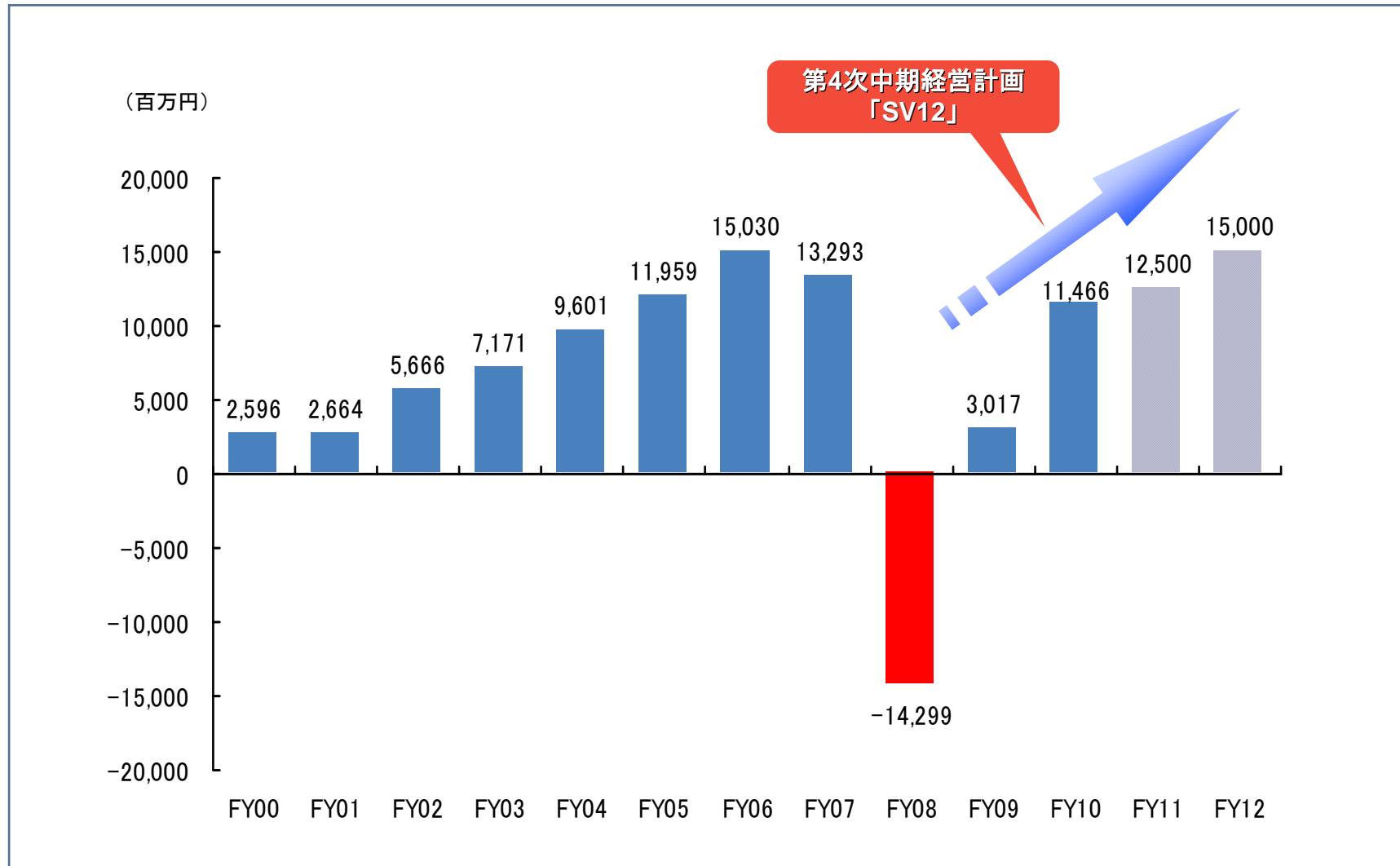
連結	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 2Q実績	2012年度 目標
売上高	2,335	2,595		2,600
営業利益	52	156		190
経常利益	30	115		150
ROA	2%	5%	※5% (年間推計ベース)	7%
有利子負債	1,792	1,652	1,600	1,450
純資産比率	9%	12%	16%	20%
設備投資	57	46		250/3年間*



第4次中期計画  
「SV12」開始

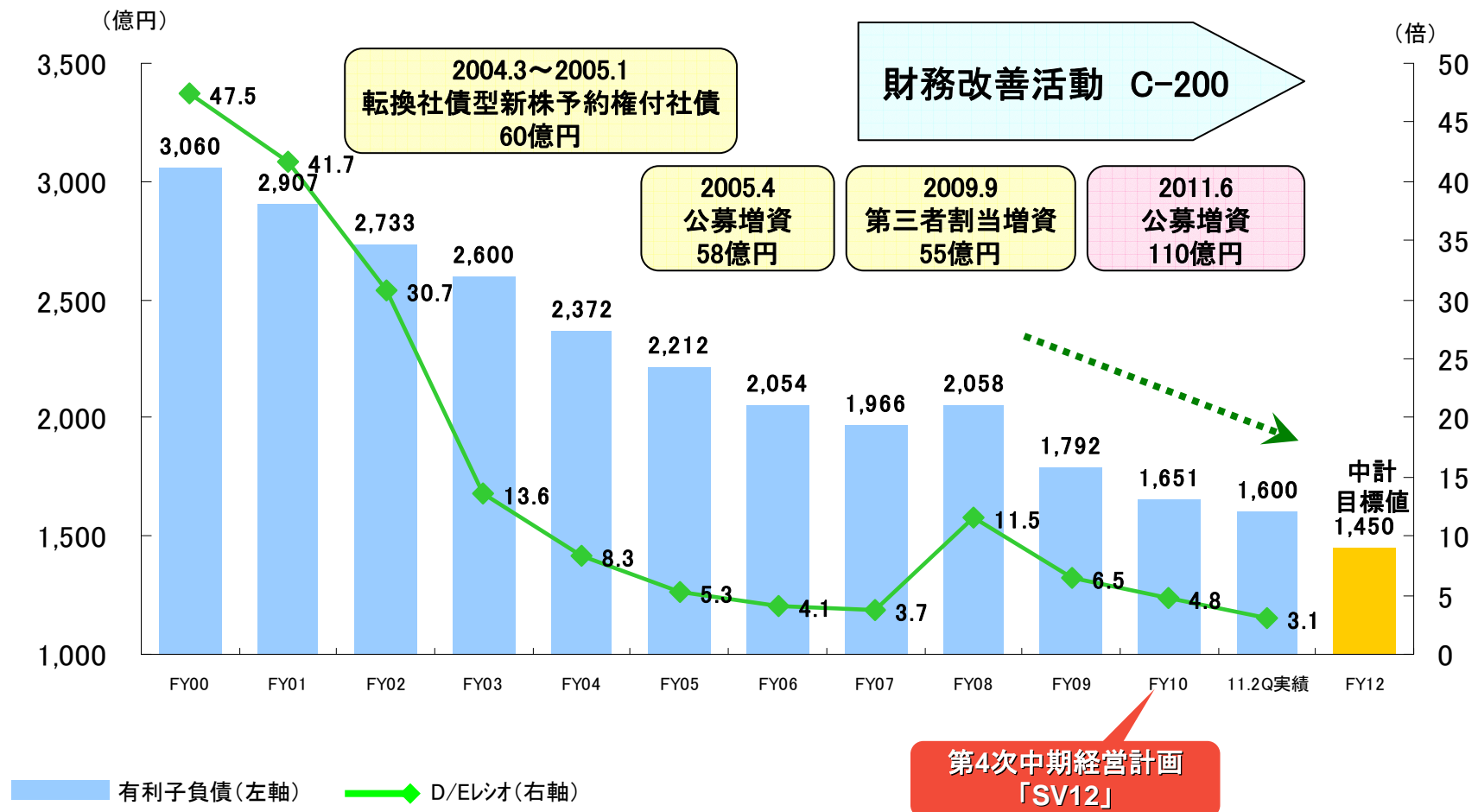
\* 戦略投資含む(ポートフォリオの入替え)

## ⑧ 経常損益の推移



# ⑨ 財務体質改善

- 財務体質改善
  - ・ 全体的財務改善活動C-200によるキャッシュ創出  
在庫削減(-30%)、土地売却 等
  - ・ 増資等による資本の増強の実施



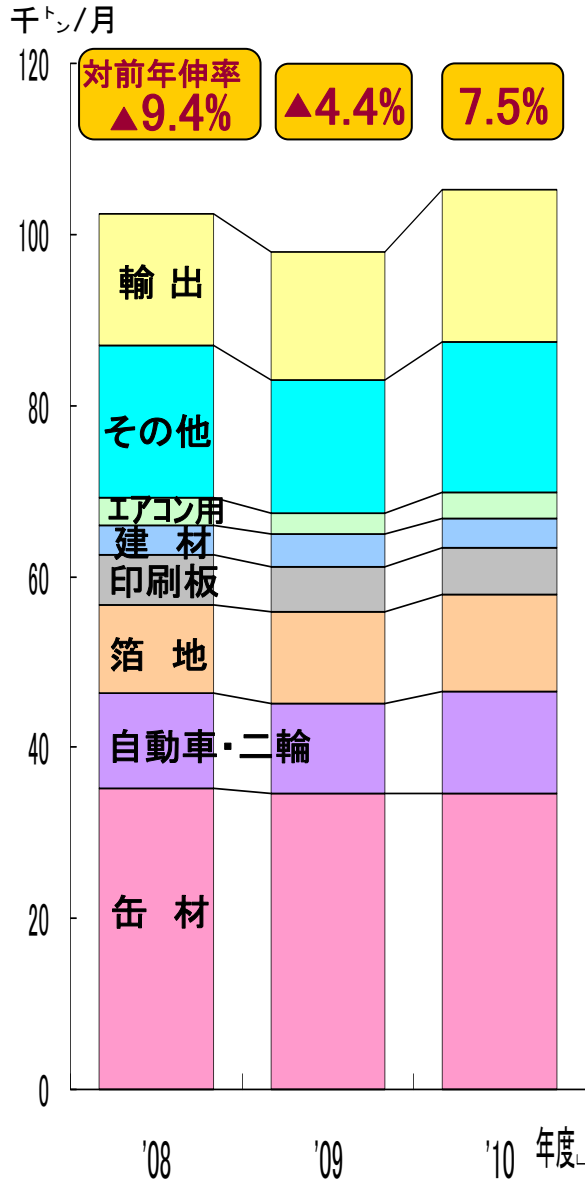
(参考資料)

需要分野別販売概要

# ① アルミ板

データ: 日本アルミニウム協会

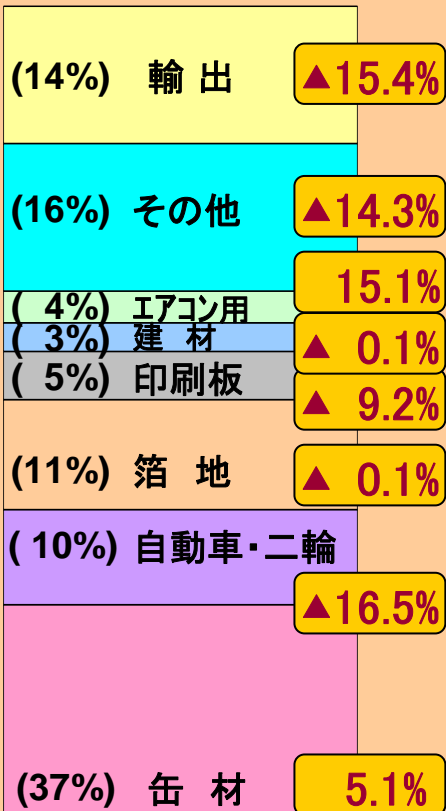
## 業界全体出荷量



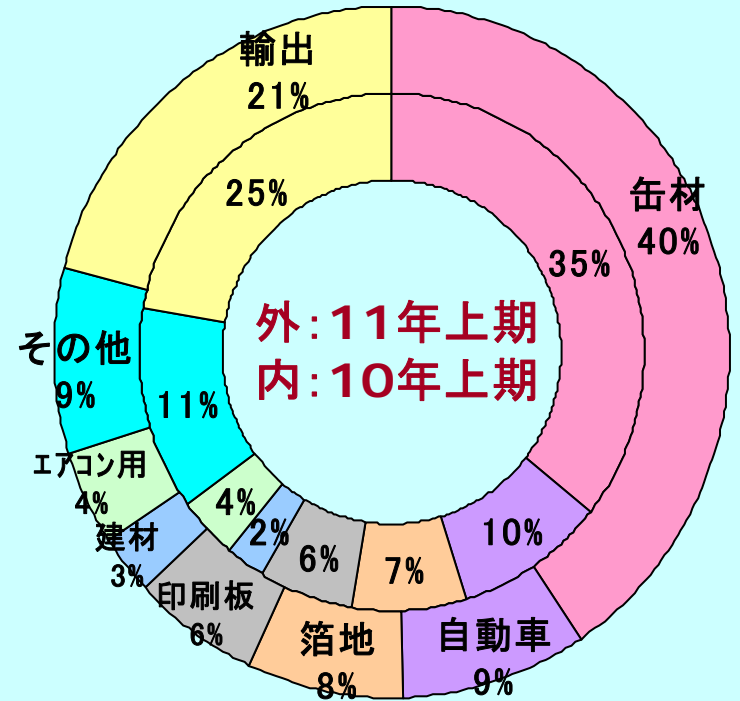
## <11年上期>

102千トン 対前年伸率 ▲5.1%

構成比



## 当社販売量

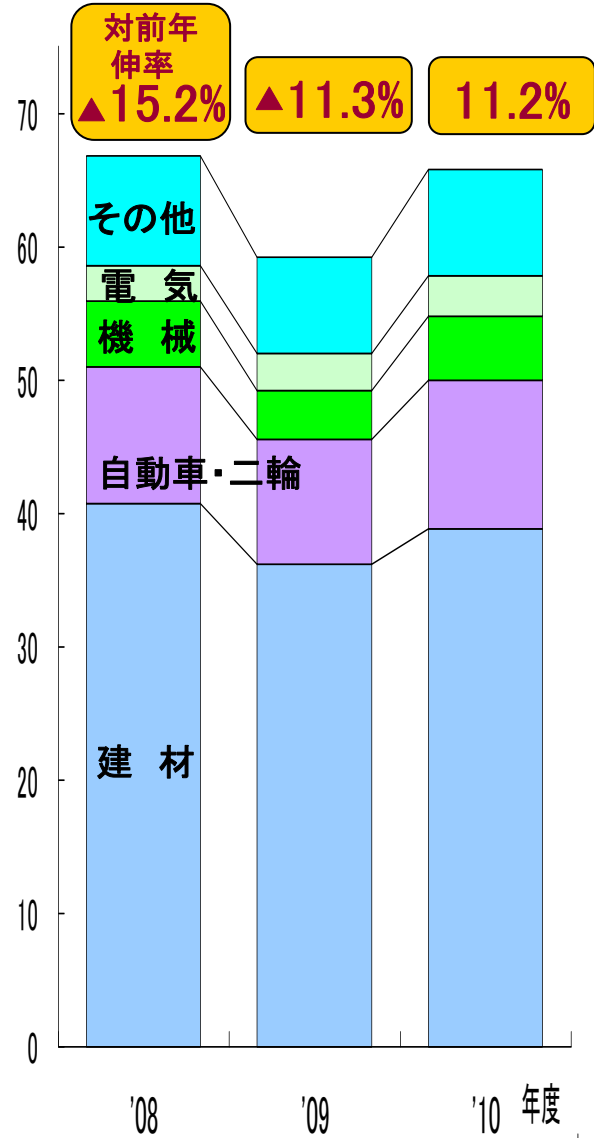


# ② アルミ押出

データ: 日本アルミニウム協会

## 業界全体出荷量

千トン/月

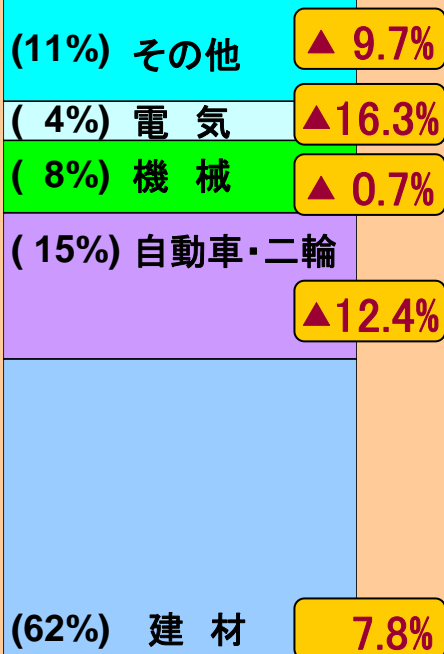


## <11年上期>

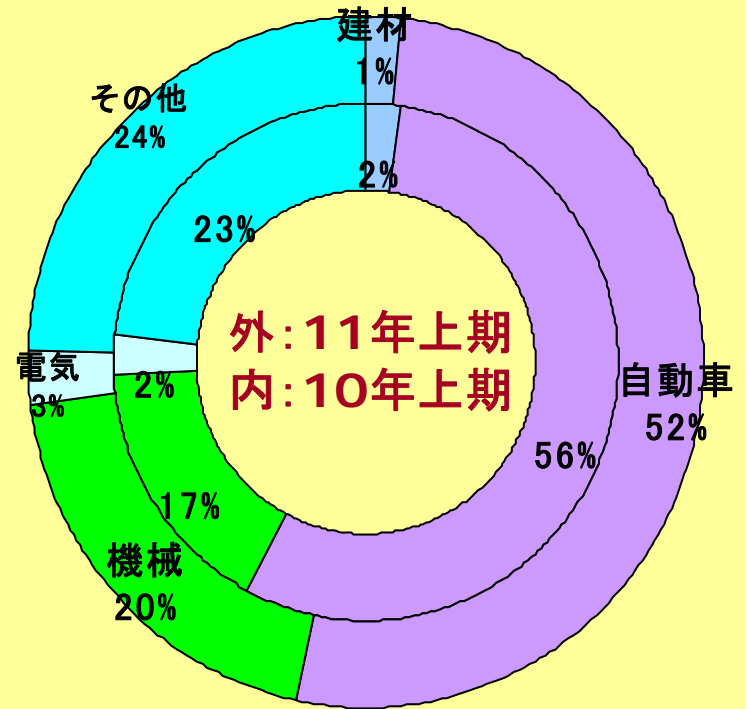
64千トン

対前年伸率  
0.2%

構成比



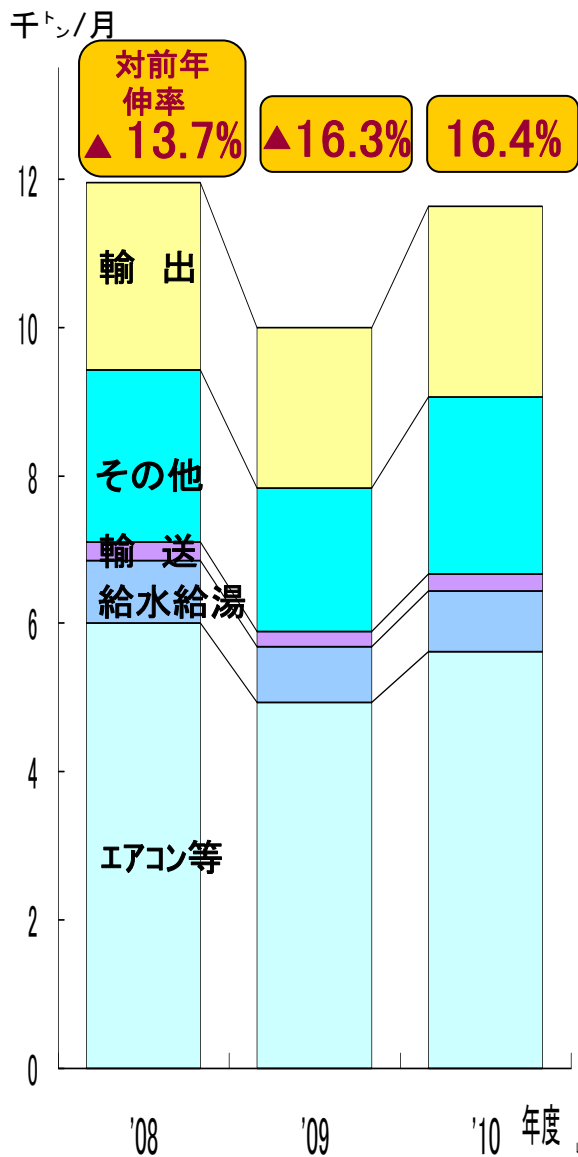
## 当社販売量



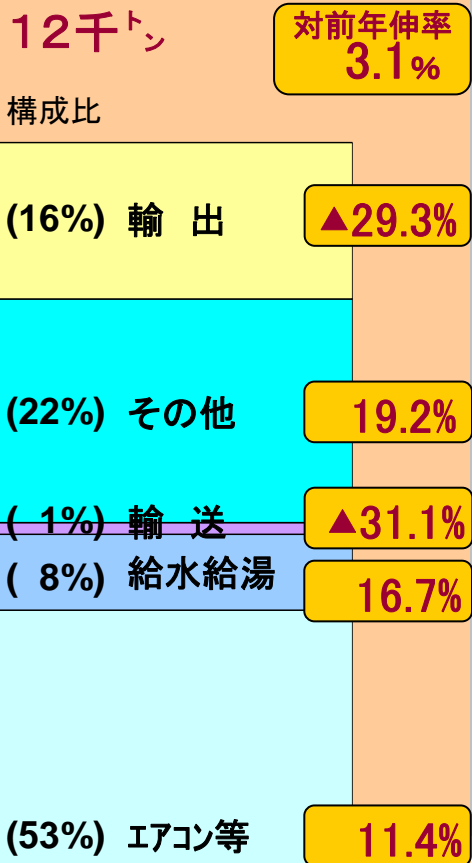
# ③ 銅 管

データ: 日本伸銅協会

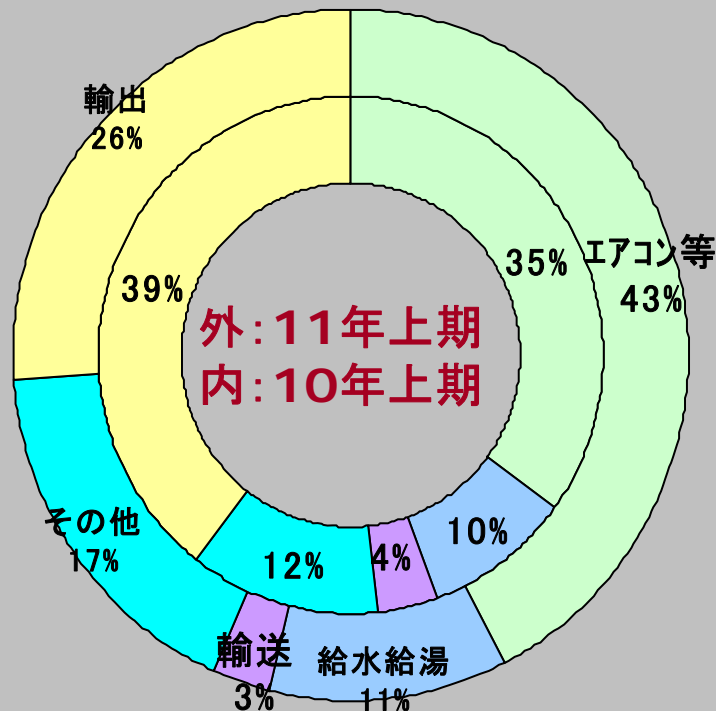
## 業界全体出荷量



## <11年4-8月>



## 当社販売量



# 将来見通しに関する注意事項

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。本資料の中には、弊社の予想・確信・期待・意向及び戦略など、将来の予測に関する内容が含まれております。これらは、弊社が説明会の時点で入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて作成されており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関する如何なる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。本資料に関する著作権・商標権その他全ての知的財産権は、当社に帰属します。